

# 「2010土壌・地下水環境展」が都内で開催され、合計七十社・百五十五小間が出展した。大規模の企業が集まる盛況ぶり、土壌や地下水浄化品をアピールした。

「2010土壌・地下水環境展」が都内で開催され、合計七十社・百五十五小間が出展した。大規模の企業が集まる盛況ぶり、土壌や地下水浄化品をアピールした。

手ゼネコンやベンチャー系企業など幅広い事業規模の企業が最新の技術・製品をアピールした。



来場者の関心を集めた「SS」(上)と加地貿易の出展ブース

## 自社工法・技術の優位性をアピール

### SS浄化企業も出展

ブースが散見されたが、各社から「元売再編でSS施設の土壌調査・浄化工事ニーズはさらに加速する」との指摘が相次いだ。

また「SSでは営業継続しながらのバイオ系浄化で工期が長引く印象もあったが、物件に応じて汚染土壌の状況は異なる。今後はさまざまな状況にも複数の工法で対応する、汚染浄化対策の総

合力が求められる」という意見が聞かれた。

アイ・エス・ソリユ

ションは、フエントン原位置浄化の実績を基に、複数薬剤や井戸注入・揚水・土壌掘削などの各工法を組み合わせる浄化工事を訴求。「第三世代の

原位置化学酸化法」と名

づけ、確実に汚染除去で

きる手法としてアピール

した。SS施設の浄化工

事実績で得てきた元売各

社との幅広い取引関係も

強調し、自社技術の優位

性を来場者に説明した。

旧JOMO系SSを中

心にバイオレメディエー

ション工法を手がけてき

た加地貿易の出展ブースでは、自社の浄化工事で用いるオイル分解剤や油吸着分解剤を展示。SS施設での原位置浄化工事実績を中心に、工期の短い土壌浄化工事としてアピールした。

そのほか油汚染処理剤開発のマックテクニカルシステムズの出展ブースでは、バイオ系の油吸着分解処理剤や水性洗浄剤による土壌浄化技術を紹介した。同社と代理店契約を結び取引店拡大に努めているシュアフラスターと協力し、処理剤の効果を実演して来場者に説明した。